



えんの舞 in 柿傳

令和八年四月二十五日(土) 十四時の会 / 十六時半の会

地唄「勤行寺」 演奏 富山清仁
舞 神崎えん

歌・三絃 富山清仁

えんの舞 in 柿傳

早いもので、新宿・柿傳の茶室にて、神崎えんさんに舞って頂く鑑賞会も十三回目を迎える事となりました。これも偏に皆様のお陰と思っており、心より厚くお礼申し上げます。

さて今回は、富山清仁氏による「勤行寺」の演奏と「八島」を皆様にご覧いただきます。「勤行寺」は、『もんきょう法印』と言う僧が自らの法力の凄さを見せようとあれこれと法力を披露するも、なかなか功德が出て来ず、最終的に題目を唱えると見事に法力を披露出来たと言う筋書で、歌詞自体は韻を踏んだ言葉遊びや、または早口言葉の要素が強く、滑稽物の区分に入る曲です。「八島」は、世阿弥作の修羅物、『屋島』を本歌としてつくられ、能では旅の僧が春の夜壇ノ浦の古戦場を訪れ、そこに現れた漁翁が語る義経の弓流しの件りや、鍛引きから範経の強弓の物語を、旅僧の観た一夜の夢幻として、源平の合戦が目の前に巖然と繰り広げられ、暁と共に儚く消えてゆく様として描いております。

衣擦れの音が聞こえる和室の至近の空間で、地唄舞の世界観を味わって頂ければと存じます。下記の通り、ご案内申し上げますので、ご知友お誘い合わせの上、卯月のひと時をごゆるりとお過ごし下さいませ。

新宿 京懐石 柿傳 安田眞一（神崎流地唄舞研究会 理事）

- ・日時 令和8年4月25日(土) 14時の会 / 16時30分の会
※ 受付の柿傳6階「古今サロン」に開会15分前までにご参集ください。
- ・会場 新宿 京懐石 柿傳 (かきでん)
東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビル TEL 03-3352-5121
JR新宿駅中央東口改札・新宿東口駅ビル「ルミネエスト」すぐ隣
- ・会費 柿傳でのお食事の有無で会費が異なりますので、ご希望をお聞かせください。
15,000円(税込) お食事付き(松花堂弁当・煮物椀付)：柿傳8階椅子席
10,000円(税込) お食事無し
※ 会費は当日、受付にて申し受けます。
- ・次第 9階茶室「残月」にて
 - 地唄「勤行寺」 演奏 富山清仁
 - 地唄「八島」 舞 神崎えん 歌・三絃 富山清仁
 - 後談義 富山清仁 × 神崎えん
 - 衣装の展観



富山清仁

二代目富山清琴氏(人間国宝)の長男として生まれる。箏、三絃(三味線)、胡弓奏者生田流清音会師範、(公社)日本三曲協会理事、生田流協会理事、お茶の水女子大学文教育学部非常勤講師



神崎えん

(地唄舞 神崎流 四世家元)

神崎流地唄舞は昭和10年神崎恵舞が創設。昭和53年より毎年「えんの会」を開催。平成11年、日本舞踏批評家協会新人賞を受賞。平成23年にはパリ公演。平成26年より年間4回、「地唄舞研究会」を鹿島建設、渡辺保氏の協力で主催。同別会としてワークショップを随時開催。現在に至る。平成29年、一般社団法人「神崎流」を設立し、代表に就任。東京の地唄舞神崎流の啓蒙と発展継承のために尽力している。

地唄舞とは

日本の古典舞踊には「舞」と「踊」があります。「舞」は「能」の動きにも見られるように、回転・旋回する動きを指します。「踊」は解放的に跳躍する動きを呼びます。この「舞」を座敷で、三味線音楽である地唄を伴奏として舞うのが「地唄舞」の初期のカタチでした。神崎流は、初代が大坂から東京に移り創流。その後四代目の神崎えんまで引き継がれ、ただ一つ東京で育まれて来た地唄舞の流儀です。

えんの舞 in 柿傳 お申込用紙

FAX 03-3350-5111

下記をご記入の上、切り取らずに上記番号までFAXをお送りいただくか、お電話【03-3352-5121】または、E-mail【mail@kakiden.com】にて、柿傳までご連絡を頂ければ幸いです。皆様のお申し込みをお待ちしております。

ご芳名	
お電話番号	
メールアドレス	
ご希望の会	14時の会 / 16時30分の会
お食事の有無	お食事付き (時 名様) ・ お食事無し

ご希望の会・お食事の有無は、いずれかに○をお付け下さい。